

- 一 好山居士狂詩発句
- 二 佛の歌
- 三 ごろさしハ松の葉
- 四 故郷松（紀弘光）
- 五 浄土宗門の事
- 六 露木直信誦
- 七 「梧窓漫筆」ニ云
- 八 「家道訓」ニ云
- 九 重之歌
- 一〇 「古老物語」ニ云
- 一一 虎皮鞍覆御用之御家 安永五申年御改
- 一二 打揚腰網代乗物相用候分
- 一三 御書付
- 一四 南部大膳太夫御願
- 一五 山事の手段も人の非に乗する事
- 一六 熊谷次郎直実
- 一七 浅紫庵仲住の伝「狂歌奇人譚」
- 一八 無思懸悟道の沙汰有し事「耳囊」

- 一九 天ノ利ハ不如地ノ利〔小子獨言〕
- 二〇 船と筏の論「我おもしろ」(手柄岡持)
- 二一 駿河国勝退藪の御旗竿
- 二二 一日之計在晨
- 二三 △安永五酉年十一月八日の頃▽
- 二四 「昔物語」
- 二五 なゝこ
- 二六 △南畝接▽
- 二七 朴翁隱士に贈和歌并序(西水樵夫)
- 二八 山家乃記(安藤定為)
- 二九 西山公江戸へ赴せ給ふを送たてまつる和歌并序(安藤為実)
- 三〇 西山中秋御会の記 元禄四年辛未(安藤為章)
- 三一 信光法眼の歌
- 三二 妖怪なしとも極難き事「根岸耳袋」
- 三三 役行者
- 三四 西土母
- 三五 二重切花生
- 三六 伝心に奇特有る事

- 二七 妖怪  
 三八 温泉の水〔養生囊〕  
 三九 雨水雪水毒なし〔右同〕  
 四〇 鰻虫を殺良葉  
 四一 男子婚義△儀▽  
 四二 大古男女の交  
 四三 初恋（菅原利保ほか）  
 四四 鷹の始の辨〔秋斎問語〕  
 四五 且也の字  
 四六 南京船漂着  
 四七 異国ニ而錢并無盡  
 四八 同学校監本  
 四九 余一  
 五〇 那須七騎  
 五一 我子を称して倅といふ  
 五二 瓢箪の字義  
 五三 瓢の種類  
 五四 〔万葉夫木鈔〕

- 五五 盲人かたり事いたす事  
 五六 悪敷戯れ致間敷事 附悪事に頓智の事  
 五七 女髪結の起立「蜘蛛の糸まさ」  
 五八 文吉元結「世事百談」  
 五九 彦根領地検する時「閑田耕筆」  
 六〇 徳行  
 六一 「春雨随筆」  
 六二 河州百性△姓▽壺を掘り出す事  
 六三 鬼谷子心取物語りの事  
 六四 大通人の事  
 六五 うちハ売扇うりいかのぼり  
 六六 はれ紙袋のはじめ  
 六七 貧の一徳  
 六八 江戸前大蒲焼報條  
 六九 無痛延命  
 七〇 いりあや花鳥（俊頼）の歌  
 七一 源氏の中にも秀逸  
 七二 玉のきず ほか

- 七二 しかしか  
 七四 あなかしこ  
 七五 音轉  
 七六 五色  
 七七 取籠者の事  
 七八 大関夕安深慮の事  
 七九 てるてるぼうじ  
 八〇 四海泰平  
 八一 徳川御家 井伊兵部少輔直政  
 八二 平松金次郎一番鎗の事  
 八三 越前の大守臣水野左膳  
 八四 初午稲荷詣  
 八五 中根大隅守「新著聞集」  
 八六 三恩の事「武学拾粹」  
 八七 終卷を尊み敬ふ  
 八八 男女厄年  
 八九 三聖の図「南畝秀言」  
 九〇 恐悦

- 九一 女房男房〔北窓瑣談〕  
 九二 「撰閑傳抄」ニ云〔半日閑話卷四〕  
 九三 象牙  
 九四 鳥羽塚  
 九五 泔坏△ユスルツキ▽〔半日閑話卷八〕  
 九六 百種園有武の傳  
 九七 後三條院〔梧窓漫筆〕  
 九八 所思〔本朝文鑑〕  
 九九 神主禁食  
 一〇〇 心氣を鎮むる事  
 一〇一 天皇御身の長  
 一〇二 春日里三笠山  
 一〇三 「新安手簡」澹泊先生与白石先生  
 一〇四 鶴消〔半日閑話卷五〕  
 一〇五 蜂尾半之丞  
 一〇六 川村傳右衛門名譽  
 一〇七 花も身も有る人  
 一〇八 足輕と云名目〔半日閑話卷五〕

- 一〇九 千木カツホ木〔右同卷五〕
- 一一〇 文雅
- 一一一 勤番所心得の事〔武学拾粹〕
- 一一二 佞臣
- 一一三 青地四郎右衛門
- 一一四 後醍醐帝
- 一一五 武ハ騒乱を揆ひ文ハ泰平を開く
- 一一六 火術
- 一一七 言辞
- 一一八 渡辺守綱を鎗半蔵といふ事
- 一一九 名将を討ものハ後災有〔梧窓漫筆〕
- 一二〇 武備〔右同〕
- 一二一 武役〔右同〕
- 一二二 頭支配〔右同〕
- 一二三 七里けっはい△結果▽
- 一二四 武之守護
- 一二五 隱家茂睡詠
- 一二六 留メの事

一二七 池を鏡といふ事〔白氏文集〕

一二八 塩尻

一二九 味旦

一三〇 實語教童子教

一三一 火事地震の節心得の事

一三二 詩俳の事

一三三 柿本人麿の歌

一三四 善悪の論〔志賀忍手記〕

一三五 興風来人〔大平落書〕

一三六 安藤伊賀守〔鳩巢小説〕

六二一

一 江戸歌舞妓△伎▽芝居の事

二 駅路の鈴

三 乾隆帝賀和解

四 寛政二戊年二月十九日 越中守殿御渡書付

五 御尋ニ付清次書上の写〔半日閑話〕

六 京極家へ被仰渡〔半日閑話抄〕

七 江戸惣町数并人別 享保八卯年五月・享保二十乙卯年四月・天明六丙午年十月寛政三辛

亥年

紀伊国浦へ異国船漂着

打毬

房州恵美村陥る

尾州大風津浪

津浪

紀文が盃

羽州庄内の者漂流

町法被仰渡書

儉約をむねとすへき事

泛対州侯御達の事

亜細亜の説

支配中へ申台候書付

鎌倉八幡へ遠馬

肥前島原より御届書の写

大坂日雇頭大和市右衛門悴惣次郎危き命助る

寛政四子年五月十六日 大坂大火

手鞠位の石の義ニ付御届

二四

二三

二二

二〇

一九

一八

一七

一六

一五

一四

一一

一一

一〇

九

八

- 二五 伊奈半左衛門一件
- 二六 寛政四年壬子九月伊勢国白子村神昌丸船頭幸太夫口上覚書
- 二七 子モロへ此度参候赤人船の義御尋御届候付奉申上候
- 二八 花押
- 二九 御用意の分銅
- 三〇 慈性法師の歌
- 三〇 所の尊光の歌
- 三二 慮外討の事
- 三三 俗言の転訛
- 三四 木箱銘並序(菅 師冬)
- 三五 島原の大変
- 三六 伊奈氏の事
- 三七 下総国八幡村にて鐘を掘り出せし事
- 三八 稲富氏が家の怪事
- 三九 嘲宵惑説(毛執)
- 四〇 江戸光り物
- 四 刀鍛冶黒田傳兵衛
- 四 契情小紫吉野

四三 新吉原三浦屋抱遊女高尾代々之記

四四 下総八幡土中より出せし鐘

四五 杉本望一

四六 德行

四七 朝鮮の役

四八 江戸にて毛降る事

四九 藤樹先生溢者を諭す事

五〇 〽寛政五丑年三月七日〽

五一 江戸毛降る

五二 寛政五丑年六月廿五日松前より来書状左之通

五三 寛政五年癸丑八月辛太夫へ附添松前より来候米田元舟といふ医師物語の趣

五四 寛政六甲寅年いつもし(南畝)

六四 一 羽州村々百姓徒党一件 享和元年七月

二 本所深川河浚御普請

三 諸国一同風邪流行

四 酒造米の儀

五 麻疹流行の年限

- 六 「隣女晤言」序
- 七 洛東隱士(慈延)
- 八 雪見の辨
- 九 業平天神
- 一〇 公家武家の辨
- 一一 徳政
- 一二 甲州小明見村縫之丞事
- 一三 華美を禁ず「駿台雜話」
- 一四 椀飯振廻
- 一五 みいらといふ葉「八十翁昔話」
- 一六 「膝栗毛」の序
- 一七 古語
- 一八 和泉屋源兵衛歌
- 一九 地震説(手柄岡持)
- 二〇 盜賊の節心得の事
- 二一 民間に持仏堂の事
- 二二 蚊帳に厂金を付る事
- 二三 「猿蓑」ノ序(其角)

二四 延命院悪逆の事

二五 密夫報ひありし話

二六 かげ法師の歌

二七 歌舞妓△伎▽役者尾上菊五郎倅丑之助か事

二八 延命院一件

二九 伊豆大嶋山焼

三〇 太郎稻荷参詣印鑑

三一 誤の証を爰に話す「武江年表」二云

三二 稻荷山社記の事

三三 旅中心得の事

三四 有廟中里へ御成の節御小姓小笠原孫次郎ほか

三五 △秋月佐渡守殿ハ▽「西遊記」

三六 撰選の事

三七 小女赤き切を髪に結事

三八 平塚因幡守勇死の辨

三九 江戸の女も被りをかむりし事

四〇 宗匠の事

四一 狩猟の事

- 四二 有馬侯犬を愛す事  
 四三 毛貫  
 四四 白粉  
 四五 羽州地震御届  
 四六 犬大手ニ入  
 四七 五大力  
 四八 伊東松軒  
 四九 麩食の辨  
 五〇 おくらさで「和訓栞」  
 五一 「四絶文章」ノ序  
 五二 右大将頼朝歌「市井雑談」  
 五三 「訓園集」兵鼓篇「牟礼口授策」  
 五四 闇の世の末「本作録」  
 五五 火事  
 五六 師走油を覆す事を忌む「備中鍛冶大月物語」  
 五七 宗門論「半月閑話」  
 五八 敵討「右同」  
 五九 絵本太閤記絶板

- 六〇 同年五月相對水死
- 六一 大坂町中並大坂附之寺社人數
- 六二 御勘定奉行より村觸 文化元子年九月廿八日
- 六三 淺草寺地中借地調の事
- 六四 出家士「武道初心集」
- 六五 「道志るべ」出板御答
- 六六 世にめてたきためし并拙き歌よみし物語
- 六七 流行盡
- 六八 荒凶年表
- 六九 水飲
- 七〇 又同
- 七一 正法不思議
- 七二 堀田正盛詠
- 七三 和書之類
- 七四 記不入事(苦勞性)
- 七五 起請文誓詞奥書
- 七六 本邦の人唐山の人に答ふる詩
- 七七 孔子曰

七八 龍蛇之類聾也以眼聞也

七九 人性面不同

八〇 立花侯一件

八一 遠山金四郎殿屈書 文化四丁卯

八二 又

六六一

一 文化四丁卯年蝦夷地へ異国船渡来ニ付諸家御屈書

二 羽太安芸守殿より酒井左衛門尉殿へ達書

三 鈴木氏書状

四 佐竹右京大夫殿御屈書

五 △先頃御届申上候通▽南部大膳大夫

六 佐竹右京大夫殿へ御達御書付

七 右同日松平政千代殿へ右同断

八 六月松平政千代

九 六月朔日 津輕越中守

一〇 六月二日 津輕越中守

一一 六月三日 津輕越中守

一二 松平政千代殿へ御達御書付

- 一三 南部大膳大夫殿御在所へ御暇の事
- 一四 六月三日南部大膳大夫
- 一五 六月六日 津輕越中守
- 一六 本藩御在所へ御暇の事
- 一七 六月六日 南部大膳大夫
- 一八 六月六日 松前若狭守
- 一九 六月六日 酒井左衛門尉
- 二〇 六月七日 津輕越中守
- 二一 奥羽越後の諸侯へ被仰達
- 二二 戸沢家御居書
- 二三 会津御届書
- 二四 △翌九日被仰渡▽
- 二五 羽太安芸守殿より佐竹右京大夫殿へ達書
- 二六 六月九日 津輕越中守△二通▽
- 二七 六月十四日 南部大膳大夫
- 二八 六月十八日 津輕越中守△六通▽
- 二九 丁卯十一月朔日 土井大炊頭宅に於て被仰渡
- 三〇 秋田家軍令條目 執達書

- 三二 五月蝦夷地へ異国人上陸乱妨の言上
- 三二 酒井左衛門尉様庄内より箱館へ差出候御人数
- 三三 箱館より来異国人一件の書帖
- 三四 六月 文化四丁卯也 本藩ノ人津輕住居 山崎半蔵 又
- 三五 六月八日 是又本藩ノ人津輕住居 伊東友衛 山崎半蔵
- 三六 箱館より注進状 六月廿九日到着刻付
- 三七 六月十日 巳の下刻出ス 別紙
- 三八 六月十日
- 三九 六月十日 諸家中大筒打蝦夷御用にて彼地へ参候有
- 四〇 蝦夷地へ異国船来着ニ付御書付の写
- 四一 蝦夷地騷擾の事を記したる田中氏の書状
- 四二 エトロフ島畧図
- 四三 箱館より来異国人一件の書状
- 四四 六月十四日
- 四五 松前家より異国船の義儀言上書付
- 四六 又
- 四七 六月廿五日松前若狭守又ハ一通
- 四八 六月廿五日松前若狭守 新楽閑叟書の写

- 四九 秋田家士の書状
- 五〇 戸川筑前守殿家来太田廣次書帖
- 五一 新樂閑叟書状
- 五二 深山宇平太魯西亞人へ返翰
- 五三 又
- 五四 羽太安芸守殿へ被仰渡
- 五五 蝦夷地法令
- 五六 西福寺書通
- 五七 〆十一月二十五日新組大鰐留蔵〆病死者一覽〆
- 五八 戊辰の年蝦夷地にて来巳年にて詰越御人数
- 五九 国々鏡台
- 六〇 蝦夷地御警固被仰出書
- 六一 長崎港へイギリス船乱妨一件
- 六二 同年十一月十日被仰渡
- 六三 〔玉川砂利〕抄録
- 六四 玉川漁翁
- 六五 酒仙贊
- 六六 悪水の説

六七 文化六のとし弥生はつかあまり

六八 蕎麦の記

六九 津軽親足公萬石

七〇 萬事吉兆之図説

七一 加州侯へ上使

七二 木屋藤右衛門断滅

七三 堀家怪異

七四 高木久八蘇生

七五 儉嗇

六八一

一 葦屋町桐座芝居梁折たる事

二 新吉原焼失△文化十三年子五月三日▽

三 江川氏届書

四 両芝居焼失く此年間記事

五 武州八王子宿地内怪石降候御届書

六 謹慎

七 中村歌右衛門儀訴訟

八 文政元戊寅年正月朔日以降△日誌▽

九

袈代

一〇 忠孝「花月叢紙」

一一 「最明寺殿教諭のふみ」

一二 七道具「かたひさし」

一三 国号の誤

一四 名字の訓

一五 祝の俳諧歌

一六 五柳園一人の傳

一七 へげ猫

一八 般若

一九 「訓閱集」肴組編

二〇 武者奉行

二一 左馬頭義朝

二二 狂詩（嫩松子）

二三 題質屋通帳 五排八韻

二四 狂詩二首（嫩松子）

二五 鸞の子養

二六 俳諧師紀逸か女

二七	「最明寺殿教訓」
二八	文政二卯年
二九	有司
三〇	役者見立評判
三一	ぬさ袋の事
三二	諸会所御差止御觸
三三	仁愛
三四	八百屋お七の歌
三五	難題の歌
三六	熊本領内洪水書上
三七	「最明寺殿教訓のふみ」
三八	古語
三九	藤木計文の歌々狂言作者
四〇	かんかんのふ説
四一	心掛の話
四二	渋川伴五郎の話
四三	手に汗を握るといふ
四四	待ハ甘露の日和といふ事

六九一

四五 いつも御わかひ

四六 無年名号を書

四七 御転任御任愧の事

四八 大猷院様従一位左大臣ニ被任候又御父子大臣の事

四九 文政五年四月

五〇 千里眼順風耳の事

五一 戦ひの巧拙有事

一 相馬大作一件

二 根本久二八か始末

三 露女遺書

四 「武学拾粹」

五 文政六未年五月十九日瀧沢仲盜賊組留

六 儒者の頭刺「なるへし」

七 苗字

八 飯名

九 かたかな

一〇 官名

- 一一 玳瑁「西遊記」
- 一二 名高き瀧
- 一三 芝とすみだ川の事「なるへし」
- 一四 荻原金十郎述作の章「筆のまにまに」
- 一五 黄金は天下の重宝「叢談一言記」
- 一六 日本国王「良斎問語」
- 一七 緑樹園元有の傳
- 一八 桃栗三年
- 一九 粹といふ詞
- 二〇 於西丸宮中刃傷
- 二一 老松
- 二二 虫除の歌
- 二三 菅原
- 二四 乍恐口上書を以奉御披露候
- 二五 西丸殿中刃傷一件
- 二六 世間雜書
- 二七 題忠臣蔵二拾弍首
- 二八 「大變武鑑」新作

- 二九 補遺  
 三〇 申源の覚  
 於聖堂及刃傷候事  
 三二 文政六未年七月八日  
 三三 武者化粧の事  
 三四 僧浦蓮  
 三五 文々舎蟹子丸の傳  
 三六 豆の文  
 三七 菓玉  
 三八 「塩尻」云長命楼の図  
 三九 管弦  
 四〇 管弦御聴聞の次第  
 四一 水戸宰相殿 紀伊宰相殿  
 四二 松平加賀守  
 四三 奥平大膳大夫 酒井雅樂頭 松平肥後守  
 四四 松平因幡守  
 四五 御酌御伽  
 四六 花還美作権介

- 四七 右同  
 四八 右同  
 四九 上覧相撲取組勝負附  
 五〇 文政七甲申年七月  
 五一 町芸者被召捕 文政七年申五月  
 五二 文政七申年五月落書  
 五三 町芸者へ被仰渡  
 五四 濟売女御仕置  
 五五 松平和泉守様御差函筒井伊賀守殿被仰渡之趣  
 五六 文政七甲申年十月十一日宇市復讐  
 五七 町火消へ被仰渡  
 五八 戦国衣服質素  
 五九 木全知矩連歌の事  
 六〇 佐伯惟常高崎城を乗取事  
 六一 探候差別の事  
 六二 夜の探候の事  
 六三 森氏を祝〔楽書文庫〕  
 六四 野亭の記

六五 藤原氏を何藤といふ

六六 苗字

六七 下手人

六八 物追捕使といふ事

七〇

一

浅田鐵威復讐の事

二

修学院御茶屋御幸御行列

三

蛮人水戸領へ上陸一件

四

薩州異国人上陸御届書

五

異国船渡来の節取斗方被仰出

六

流行物の歌

七

越後国椎谷海中へ流来品

八

水野羽州へ御成の落首

九

孝心の者へ御褒美

一〇

清元延寿斎が刺殺されし事

一一

茶の道暫のつつり

一二

名代香台名寄しはらくのせりふ

一三

梵嫂寺妾の事

- 一四 大和歌高名競  
 一五 張文庫  
 一六 「鸚鵡の杣」序  
 一七 「平兵衛小かん夜ルのおさかほ」下之巻  
 一八 跋  
 一九 松平越中守殿より太田直次郎へ被贈たる狂歌  
 二〇 鳩巢先生の歌  
 二一 一休和尚の母君の文  
 二二 長崎に来居る清人の一斎へ贈る詩並一斎か答書  
 二三 多田淡路  
 二四 初雪の句  
 二五 江戸中群盜  
 二六 肥後より出る大男の事  
 二七 飼猫忠死せし話  
 二八 志賀君に送(宮川蓬生庵)  
 二九 本阿弥氏の旅立に送(右同)  
 三〇 文政十亥年八月十三日  
 三一 岸廼屋男浪の傳「狂歌奇人譚」

三二 釈の慶連骸骨の絵の賛

三三 文政十年丁亥四月十二日

三四 小田原町にて町内かけあんとう

三五 手紙の文謎

三六 たはふれ證文

三七 秀朝舟

三八 腰兵糧の事

三九 越中情鼻禪の事

四〇 革鎧の事

四一 当年のはやり物

四二 近世俗説野馬代△台▽詩

四三 転切支丹類族病死の覚

四四 臍に竹べらを用る事

四五 牛車の話

四六 細川中務少輔様御達

四七 伊東播磨守様御届

四八 酒井修理大夫様御届 供連減少の儀

四九 寄合酒井舍人様御届 家来殺害

五〇 加藤遠江守様御達 捨子一件

五一 内藤新宿にて喧嘩御仕置

五二 内藤備後守御領分洪水ニ付御届

五三 立花左近將監様両度大風雨御損毛御届

五四 小笠原大膳大夫様御在所大風雨ニ付破損所御届左之通

五五 鍋嶋撰津守様より御届左之通

七一 一 三芝居座元並役者共へ被仰渡

二 若君様御元服御官位

三 六揃園の亭に

四 日尾櫻塙女史 丑拾三歳

五 夜討

六 長田喜兵衛真野鐵三郎一件

七 外神田佐久間町より出火 文政十二年三月廿一日 ㊄

八 右出火ニ付落書色々ある中に 焼はらい

九 松平淡路守

一〇 正月五日右御用番松平和泉守様へ被差出

一一 柳宮の御会

- 一一二 山王江大納言様御宮參御行列の次第
- 一一三 於大坂切支丹御仕置被仰渡候書付写
- 一四 文政十三庚寅春おかきはなし
- 一五 堺より申越たる手紙の写 閏三月二日書
- 一六 人統の図
- 一七 「新補倭年代皇記絵章」卷之七
- 一八 「同書」明和八年辛卯の條
- 一九 伊勢太神宮「世諺辨畧」
- 二〇 文政庚寅おかげ參 天保元改元「武江年表」二二云
- 二一 京都地震諸説
- 二二 己丑之火災後翌庚寅御觸有之節の狂詩
- 二三 青峩園真砂子の傳「狂歌奇人譚」
- 二四 中古以来の大賢「梧窓漫筆」
- 二五 石塔磨
- 二六 探候作法
- 二七 相凶の探候の事
- 二八 西丸大手御門番所刃傷の事
- 二九 慮外者打留候届

- 七二
- 三〇 文政十三庚寅年三月△高橋佐左衛門一件▽  
 町々往還ニ而賭事致間敷御觸
- 三一 小笠原家家采御叱り
- 三二 京都大地震
- 三三 酒廼屋吞安の傳
- 三四 魁星
- 三五 字謎
- 三六 なぞなぞといふ戯
- 三七 「樂書文庫」序(宮川政運)
- 三八 「右同」序(嶋田完方)
- 三九 百姓庄五郎の事「窓のすさみ」
- 四〇
- 一 天保元年二月九日
- 二 天保二年辛卯年寄合伊東主膳殿一件
- 三 天保二年卯年
- 四 西丸大手御門番所ニ而刃傷有之右落首
- 五 同年四月四日被仰渡
- 六 同年十月九日

- 七 天保二辛卯年十一月六日
- 八 閏十一月二日
- 九 十二月六日
- 一〇 天保四巳年正月十一日
- 一一 七月廿八日
- 一二 勸進帳番組 天保二卯年
- 一三 天保三壬辰年閏十一月二日申渡之覚
- 一四 あみのめに風
- 一五 萬歳「無尽蔵」
- 一六 ちくらもの
- 一七 鵠呼△インコ▽
- 一八 可児才蔵老年迄武功心掛の事
- 一九 大口悪口
- 二〇 納富源太夫長崎出役元より申越候書状写
- 二一 天保三年解し難き所々平田繁十郎承り御聞書
- 二二 長崎にて清商人召捕候一件
- 二三 琉球人来聘
- 二四 再度登城道筋

- 二五 上野御宮參詣道筋  
 二六 矢部題入野馬台之詩  
 二七 堺奉行矢部駿河守より北村季大へ文通  
 二八 堺の浦風  
 二九 慈性法師菊の歌  
 三〇 菊のきせわた  
 三一 詠勤番壮士  
 三二 鮭のさしみ毒ある事  
 三三 七難八苦  
 三四 小車紋錦の事  
 三五 無宿入墨 異名鼠小僧次郎吉一件  
 三六 坊主衆御仕置  
 三七 閑居賦(汶村)  
 三八 漢士「太平策」  
 三九 異国船  
 四〇 西園寺殿歌「続後撰衆」  
 四 陰陽師田辺静馬一件  
 本所亀沢町出火

- 四三 近々追はぎ  
 四四 陣中用具の事  
 四五 要器大旨の事  
 四六 若党小者出立の事  
 四七 酒井左衛門尉様御届書  
 四八 若宮参  
 四九 奈良法師 根来法師  
 五〇 下す  
 五一 同「大和物語」に云  
 五二 雪六花  
 五三 雪竿  
 五四 東坡  
 五五 「淮南子」曰  
 五六 千波太郎兵衛  
 五七 途中逢雪ほか  
 五八 「為楽庵雪川句集」  
 五九 西村貌庵  
 六〇 天保三辰年十二月十五日

六一 「告志篇」

六二 御家士松平伝蔵小家傳吉へ被下候御書の写

六三 忠孝「花月叢紙」

六四 記憶△憶▽の事「右同」

七三一

一 天保四癸巳年今様流行

二 蝙蝠入りしを賀（宮川政運）

三 奥羽諸侯方御損毛御届

四 嶋屋召仕弥助主殺一件

五 天保四巳年十二月廿一日ニ重門被建候ニ付被仰渡△高田屋闕所▽

六 奴婢の子「燕石雜志」

七 大小馬手差の事

八 體之矢の事

九 草庵の記（宮川政運）

一〇 芳野種の櫻「平井俊章手記」

一一 狩谷掖斎か歌

一二 陸奥の州郡「新安手簡」

一三 事證

一四 松屋佐吉伊勢屋嘉兵衛御咎

一五 長嘯子詠歌の事

一六 足半草履の事

一七 處戀

一八 肥前天草郡百姓平兵衛粉献上

一九 天保七年九月四日掃部頭老中列座和泉守申渡

二〇 天保八年西八月江戸大風

二一 天保九戌年閏四月△屋敷相對替△

二二 天保十年亥△有馬玄蕃頭に鷹を下附△

二三 同十二月△渡邊登塾居△

二四 天保十一子年四月十二日於深川日矢敷 尾州藩

二五 同年四月△火事場乗出御馬目印△

二六 天保十二年丑年六月大目附へ△質素節儉△

二七 天保十三寅年二月廿八日△水野出羽守病死△

二八 唐国イキリス一件

二九 天保十三寅年十一月廿一日△市川播磨守知行半知召上 小普請入逼塞△

三〇 同廿三日△加藤半左衛門、高利貸附により重追放△

三一 十二月朔日△松平大隅守被叙△

- 三二 同廿五日△堀金十郎ほか逼塞▽
- 三三 寅十二月廿九日△黒沢甚助指扣▽
- 三四 同年十一月水野越前守様御渡被成候御書附△観世鐵之丞ほか能役者へ▽
- 三五 十一月水野越前守様より大目附へ
- 三六 同年十一月琉球国賀慶使讀歌
- 三七 正使王子へ津輕甲州君和歌
- 三八 天保五甲午年秋田領凶作ニ付君公より仰渡され御條目
- 三九 生駒昌蔵言上書
- 四〇 甲午十月御參勤御道中割
- 四一 觀相の論「花月叢紙」
- 四二 孝子榮吉か事
- 四三 蔓草左り卷の事
- 四四 七里けっかい
- 四五 白須殿并筑州殿茶亭の額
- 四六 天保六未年十月大久保加賀守殿御渡大目附へ△感應寺本堂建立助勢指名▽
- 四七 十一月御同人渡大目附へ△江戸廻米の件▽
- 四八 天保七申年二月松平和泉守殿御口達大目附へ△養子縁組の件▽
- 四九 同年六月加賀守殿御渡△朝鮮人参自由販売▽

- 五〇 天保八酉年水野越前守殿御渡九月大目附へ△酒造米制限▽
- 五一 同年十月五日越前守殿御渡大目附へ△色目禁止▽
- 五二 天保九戌年正月越前守殿御渡大目附へ△国絵図、城絵図無用の件ほか▽
- 五三 天保九戌年四月脇坂中務大輔殿御渡大目附へ△鉄砲禁止▽
- 五四 同年六月越前守殿御渡△大判吹増の件▽
- 五五 天保亥十年正月帝鑑之間御席被仰合
- 五六 同年二月越前守殿御渡大目附へ△老女袖沢改名▽
- 五七 三月越前守殿御渡大目附へ△尾張大納言死去により田安中納言跡目相統▽
- 五八 同年七月御勘定所にて御勘定組頭渡邊三郎助様御達△難船積載品の陸揚について▽
- 五九 同年十一月越前守殿御渡大目附へ△新田開発の件▽
- 六〇 同年十二月松平越中守△京都御使道中質素許可▽
- 六一 十二月脇坂中務大輔殿御渡御書取御覚書△出仕時刻厳守の件▽
- 六二 天保十一子年二月土屋紀伊守殿大目附へ御達△饗應節俵の件▽
- 六三 同年三月大目附へ△本田畑への甘諸作停止の件▽
- 六四 大目附へ 袖川△袖川改名の件▽
- 六五 同月越前守殿御渡御書取△高家贈答品の制限▽
- 六六 七月太田備前守殿御渡大目附へ△御馬代の納入期限厳守の件▽
- 六七 八月出雲日御崎神主三位檢校△社再建助勢指名▽

- 六八 同月水野越前守殿御渡△川筋寄州の新開禁止▽
- 六九 同年十月越前守殿御渡大目附△恭姫引移に伴う市中取締▽  
大目附△川筋普請の簡略化▽
- 七〇
- 七一 同年越前守殿御渡大目附△酒造米制限継続▽
- 七二 天保十二年正月大炊頭殿御書取大目附△色目制限再達▽
- 七三 同閏正月脇坂中務大輔殿御渡大目附△鷹狩の横暴禁止▽
- 七四 天保十二年閏正月越前守殿御渡大目附△抜蠟買禁止の件▽
- 七五 同三月太田備後守殿御渡大目附△老女新・退任▽
- 七六 同四月十日水野越前守様被成御渡候書付の写△百姓地讓受禁止▽
- 七七 同五月太田備後守殿御渡大目附△浪人取締の件▽
- 七八 同年六月五日水野越前守様御渡被成候御書付の写大目附△節儉再達▽
- 七九 同六月廿六日御同人様相渡被成候御書付△老中宅訪問抑制▽
- 八〇 同年七月△殿中作法の件▽
- 八一 丑六月晦日御本丸表坊主組頭河野邊修徳より差越候紙面の写△坊主取締方改正▽
- 八二 同七月九日越前守殿御渡大目附△八月上旬乗馬上覽対象者指定▽
- 八三 同七月十三日御達御目附より△各家足輕の服装制限▽
- 八四 同八月十五日△儉約再達▽
- 八五 同年七月越前守殿御渡御覚書△文恭院献燈期限▽

- 八六 同八月十五日大目附へ《儉約再達》七三―八四と同文《》
- 八七 同九月朔日大目附跡部能登守殿御談事之趣口達《坊主部屋立入禁止》《》
- 八八 同年八月《介添登城制限》《》
- 八九 同九月大目附へ《酒造米制限の緩和》《》
- 九〇 同九月三日土井大炊頭様被成御渡候御書附
- 九一 同九月三日大目附神尾山城守様御渡被成候御書附《中途退出の心得》《》
- 九二 同九月六日御本丸表坊主組頭より申越候書面《贈物謝絶》《》
- 九三 同九月十三日《病氣介添者の処遇停止》《》
- 九四 同九月十六日土井大炊頭様御達《参勤延引滞府注意》《》
- 九五 同九月十九日大目附へ《献上物抑止》《》
- 九六 同十月十四日大目附《凶作対策として柵閉置指令》《》
- 九七 同年十月大目附へ《養子縁組の件》《》
- 九八 同月大目附へ《芝居、見世物禁止》《》
- 九九 十一月九日《見張番所の異様の絵柄の屏風禁止》《》
- 一〇〇 辛丑十一月大目附へ《法事の華美禁止》《》
- 一〇一 同月大目附へ《武芸鍛錬奨励》《》
- 一〇二 同十二月大目附へ《公用文書の紙質を粗紙に》《》
- 一〇三 丑十二月堀田備中守様被成御渡候御書附回通并御口達迄通《年末年始挨拶廻りの期限》《》

- 一〇四 大目附へ△無作法注意▽
- 一〇五 大目附へ△出仕の際の早期着席▽
- 一〇六 大目附へ△出仕時の心得▽
- 一〇七 大目附へ口達にて達之覚△出仕作法の件▽
- 一〇八 辛丑十二月廿九日△増上寺参詣作法の件▽
- 一〇九 定△親族内統制強化、事務手続の簡素化▽
- 一一〇 大目附へ△官位昇格の件▽
- 一一一 大目附へ△学業精励の件▽
- 一一二 大目附へ△菱垣廻船問屋の解散、取引勝手次第▽
- 一一三 大目附へ△辻番所風儀是正▽
- 一一四 水野越前守様御渡大目附へ△菱垣樽船取引勝手次第▽
- 一一五 △一、自今新板▽△出版規制▽
- 一一六 天保十三壬寅年△武家の町屋敷所有禁止▽
- 一一七 寅四月八日△屋敷周辺の火気取扱注意▽
- 一一八 正月九日△大紋の染色規制▽
- 一一九 三月大目附へ△鮮鯛贈答の際の金代納奨励▽
- 一二〇 二月水野越前守様より大目附へ△博奕禁止▽
- 一二一 町触の写△奉公人請の件▽

一二二 寅三月水野越前守様御渡被成候大目附へ△武家屋敷の博奕禁止▽

一二三 同三月御同人様御渡被成候大目附へ△問屋名称の使用禁止▽

一二四 壬寅四月ニ水野越前守様被成御渡候書付△押売禁止▽

一二五 四月十九日△裏方の順位▽

一二六 同四月御同人様より大目附へ△初物の禁止▽

一二七 壬寅四月△家屋敷売買▽

一二八 同五月御同人様より御渡大目附へ△馬喰馬高直▽

一二九 寅四月水野越前守様より大目附へ△奢侈禁止▽

一三〇 大目附へ△茶屋女取締強化▽

一三一 寅六月十一日△高島四郎太夫の火術伝授勝手次第▽

一三二 寅六月大目附へ△役者の抱置制限▽

一三三 六月水野越前守様より大目附へ△出家社人等の町住制限▽

一三四 六月水野越前守様より大目附へ△藩主蔵版奨励▽

一三五 七月御同人様より大目附へ△新規刻版の重複調整▽

一三六 七月水野越前守様より大目附へ△医書の納本の件▽

一三七 七月御同人様より大目附へ△石燈籠等高直物の売買禁止▽

一三八 六月廿六日△丁銀包両替の不正取締▽

一三九 七月五日△金銀銭密造取締▽

- 一四〇 壬寅七月十日△一三六と同文△
- 一四一 七月廿五日△鉄砲訓練の場所、参加者姓名の調査△
- 一四二 八月四日御本丸当番表組頭河野辺修徳杉山幸山より差越候紙面△表坊主処遇△
- 一四三 壬寅八月四日御徒目付組頭高倉助五郎藤田又三郎依田源十郎より差越候紙面△玄関番、中之口番の当番申込△
- 一四四 八月越前守様被成御渡大目附へ△屋敷貸禁止△
- 一四五 文化三年相触候趣△異国船取扱の件△
- 一四六 覚 壬寅八月△右同△
- 一四七 壬寅九月七日真田信濃守様被成御渡候御書付大目附へ△音入稽古届出の件△
- 一四八 九月十八日越前守様御渡大目附へ△百姓風儀質素督励△
- 一四九 壬寅九月十八日△異国船取扱再通達△
- 一五〇 九月大炊頭殿大目附へ△異国船防御の件△
- 一五一 十月堀田備中守様御渡大目附へ△新板書物保留の件△
- 一五二 壬寅十月△金銀利足下げ△
- 一五三 十月△寛政曆改曆、天保へ△
- 一五四 十月被仰出大目附へ△遭難船取扱△
- 一五五 寅十月四日御数寄屋組頭より差越候紙面△奉仕人数割通知△
- 一五六 寅十月大炊頭様御渡△諸国廻船の冲合通行停止△

一五七 十月大目附へ△直侍等の禁止▽

一五八 十月大目附へ△年貢米等の金納相場場操作禁止▽

一五九 十月△町人男女衣類規制▽

一六〇 十一月二日△万事質素の件▽

一六一 十一月三日水野越前守様より△産物独占禁止▽

一六二 △一、此年十二月廿六日▽△東照宮御誕辰日祝御能▽

一六三 唐人屋敷騒動 天保六年未年

七五

一 大塩平八郎一件

二 落咄

三 ちよぼくれ

四 落首

五 大坂表より来書の写

六 御大名衆御固被仰渡候御名前左の通

七 同町奉行より切紙の写

八 御触面

九 酉二月廿八日辰ノ上刻大坂表より御届書

一〇 大坂御目付より御届書

- 一一 二月廿六日酒井雅楽頭へ御達
- 一二 御家大坂御蔵屋敷詰の者より来状の写
- 一三 大坂加番米津藩中より去歲加番酒井右京亮殿中への書通の内
- 一四 亀并能登守殿大坂御蔵屋敷より申越候来書の写
- 一五 御城代土井様より御届の写
- 一六 大坂表池田某よりの書状の写 四月三日付
- 一七 流行歌
- 一八 大坂霧屋茂三郎より来状
- 一九 於大坂大塩平八郎一件落着
- 二〇 世の中人氣散取拂ひ振出しな
- 二一 六塵の楽
- 二二 沢村大學皆朱の鎗の事〔武辺咄聞書〕
- 二三 擇友
- 二四 梅干
- 二五 書法を知らず謀反と書し事〔聞書文庫〕
- 二六 帰り咲を賀〔蓬生庵漫録〕
- 二七 松平朝負一件
- 二八 南部八戸騒動

- 二九 天保野暮△馬▽台の歌
- 三〇 菖蒲切石打台
- 三二 花実野芹冬の巻
- 三二 儒書兵書の事
- 三三 浪花の田雀樹
- 三四 焉馬が六句を寿く序（山東京伝）
- 三五 大谷十町が歌
- 三六 酒井忠清善言の事
- 三七 大臺の画 イキシチニノ韻（手柄岡持）
- 三八 後漢光武の日
- 三九 肴の字の論「秋齋間語」
- 四〇 烟管の辨
- 四一 心學伊露葉誠
- 四二 小泉十兵衛の話「志賀忍手記」
- 四三 或老女の手植えのならの樹
- 四四 ともりの歌（武者小路中納言）
- 四五 昼顔
- 四六 諸侯方留守居の事

四七 太田備後守殿御渡御書付写

四八 事証「武撃拾粹」

四九 不覚の事

五〇 天保九戌年比見立落書

五一 戦場引移ニ付落書川柳点

五二 こうろぎもの語り

五三 御城西丸炎上

五四 斎藤昭郷弘道館を建給ふ事  
〔常陸帯〕の内抄書

五五 御家の儀ハ公辺の御羽翼

五六 江辺寒日（小堀政一）ほか

五七 高札墨にて塗候事

五八 京極高倍公和歌

五九 美男かづら

七八一

一 天保十二丑年閏正月晦日

二 此頃の落首御書付の写

三 四月△記事なし▽

四 五月十二日

御役替

五 五月十四日被仰渡

六 別段

七 五月十五日御役替

八 六月十一日被仰渡

九 同十三日於町奉行所申渡

一〇 △前五月廿七日▽

一一 六月十三日

一二 同晦日

一三 七月朔日御役替

一四 丑七月二日被仰渡

一五 七月三日

一六 越後長岡御転領の節

一七 七月九日

一八 同十日

一九 七月十一日

二〇 七月一二日思召有之ニ付今度所替

二一 同廿九日被仰渡

二二

二三

- 二三 別段御達
- 二四 御蔵前床見世取払
- 二五 下丑十月五日
- 二六 上九月頃
- 二七 丑九月十九日
- 二八 丑七月五日病氣ニ付御尋被遣之
- 二九 大目付御目付へ御渡書付
- 三〇 天保十二辛丑年十一月八日
- 三一 同十二日桶職定五郎御褒美
- 三二 辛丑十一月十四日両御丸奥医師へ仰渡
- 三三 御数寄屋頭へ
- 三四 丑十一月十八日大目付へ被仰出
- 三五 十二月八日御役替
- 三六 中山守玄院御仕置
- 三七 野馬台狂詩
- 三八 大同竹〔熙朝文苑〕
- 三九 終屋何某が即智の事
- 四〇 入御後老中居残水野越前守申渡 老中申渡の覚

- 四一 丑六月五日水野越前守殿御渡
- 四二 丑十月廿五日水野越前守殿御渡被成候御書付の写
- 四三 穂屋甫屋の論
- 四四 (井野石斎)
- 四五 (加藤大助)
- 四六 春雨歌
- 四七 「晏柳後園」序(支考)
- 四八 釜の墨
- 四九 中村八太夫高年強壯
- 五〇 嶋田君へ送る(宮川政運)
- 五一 紅梅や主なくても花の兄「武備目捷・鳩巢小説」
- 五二 執権といふ事
- 五三 老△郎▽党、若党の事
- 五四 足輕の律義△儀▽「平井迂齋手記」
- 五五 呉竹河竹「つれづれ草」
- 五六 萬の事頼むべからず
- 五七 備中孝悌(甚助)の事「翁草」
- 五八 (半時庵淡々)が文の事

五九

壬七月九日夜

六〇

廉恥

六一

唐人孟涿九

六二

寄車恋(松井幸隆)

六三

松井幸隆亭にて瀧紅葉

六四

題しらす

六五

〔学者必読妙々奇談〕

第一回 良雄説鵬斎

第二回 釋尊詰天民

第三回 米芾詈三亥

第四回 栗山壓五山

第五回 紫石糺写山

第六回 現心地獄相

第七回 蛆蠅作歌詩

一抹の桃実甘苦ある事

呂宋国漂流記

六八

カヂバラ

六九

マ子ラ△マニラ▽

七〇

イギリス

七一

唐国

七二

漂着以後国々護送の次第 呂宋国の内

七三

呂宋国漂流海陸路程全図

七九

一

天保十三年壬寅三月廿二日

二

十一月十八日

三

十一月廿五日

四

転宅(宮川政運)

五

犬追物上覧

六

五大力

七

天保十三寅年正月十一日柳宮の御会

八

同正月三日

九

正月廿五日

一〇

二月上野執当へ

一一

二月廿四日

一二

御浜御成御飭付

一三

天保十三寅年十月四日町奉行鳥居甲斐守様御役宅にて被仰渡

- 一四 「東土産」の序（宮川政運）
- 一五 吳の僧拍子延の歌の事「樂書文庫」
- 一六 野暮大△野馬台▽詩
- 一七 鼈異「孔雀樓文集」
- 一八 ちよぼくれ 天保十三寅年 巳下二條共同し
- 一九 野馬台詩
- 二〇 日本一家海角散 一名問屋根功菓
- 二一 十二月廿八日町奉行へ
- 二二 四月十六日より吳服夏物類大安売
- 二三 藩中武士かなし輕業
- 二四 乱国舞をみさへな「寅年落書」
- 二五 天保十一子年十二月廿四日新吉原町へ被下女
- 二六 天保十三年十一月真田信州公臣佐久間修理上書
- 二七 花のもと神語
- 二八 昔ハ学問僧より出る事
- 二九 今西行似雲歌の事「聞書文庫」
- 三〇 広瀬氏を吊る（宮川政運）
- 三一 天保十四癸卯年正月拝領屋敷の内貸地の儀被仰出

三二

同年十月

三三

天保十四癸卯年二月白虹の如きもの夜毎顕

三四

二月十二日

三五

三月辻番心得方伺並御附札

三六

同年三月四日

三七

天保十四癸卯年四月十三日日光御参詣

三八

江戸橋ニ御勤番

三九

御参詣中百人組御門御勤番

四〇

兜饅頭の事

八〇一

天保十四癸卯年三月廿八日

四月六日為御使西丸御老中間部下総守 以下日光参詣関係文書

西南の方へ白氣出ル

探候可格物事

天保十四卯年実語教

天保十四卯年三月三日

真田信濃守宅へ呼出ス

申渡書付

- 九 閏九月五日
- 一〇 閏九月十三日
- 一一 閏九月廿三日
- 一二 玉屋の花火「平井辻斎手記」
- 一三 小普請石河疇之丞甲府勝手被仰付候ニ付御老中阿部伊勢守様へ嘆願上書の写
- 一四 絵に魂入るゝ事（柳里恭）
- 一五 朝倉殿仁政「平井俊章手記」
- 一六 「つれつれ」
- 一七 赤裸武者久蔵の事
- 一八 長岡氏物語の事
- 一九 天保十四年癸卯
- 二〇 卯正月廿日水野越前守様被成御渡御書付の写 大御目付松平豊前守殿より以御廻状御通達
- 二一 卯三月六日御廻状御通達
- 二二 卯三月十三日御廻状
- 二三 卯三月廿八日御廻状
- 二四 卯三月晦日御廻状
- 二五 卯四月八日御廻状

- 二六 卯四月十日御廻状
- 二七 卯五月六日御廻状
- 二八 卯五月十八日御廻状
- 二九 卯五月晦日御廻状
- 三〇 卯六月二日御廻状
- 三一 卯六月八日御廻状
- 三二 卯五月九日御廻状
- 三三 卯六月十日御廻状
- 三四 卯六月十八日御廻状
- 三五 卯六月十八日御廻状
- 三六 卯七月二日御廻状
- 三七 卯七月十四日御廻状
- 三八 卯七月廿一日御廻状
- 三九 卯七月廿四日御目付へ
- 四〇 卯七月廿八日御廻状
- 四一 卯八月八日御廻状
- 四二 卯八月十七日御廻状
- 四三 卯八月廿二日御廻状

- 四四 卯八月廿七日御廻状
- 四五 卯九月十二日御廻状
- 四六 覺
- 四七 卯九月十八日御書付
- 四八 卯九月廿五日書面
- 四九 卯九月廿六日書面
- 五〇 卯閏九月二日御廻状
- 五一 卯閏九月七日御廻状
- 五二 卯十二月上意の趣
- 五三 於御座之間一同蒙
- 五四 町奉行へ
- 五五 三奉行へ
- 五六 町奉行へ
- 五七 覺
- 五八 卯十二月十六日御書付
- 五九 卯七月於大坂豪家町人共へ被仰渡
- 六〇 天保十四卯年十一月甲府勝手小普請浜中三右衛門より差出候書付
- 六一 天保十五辰年五月暮所井上因磧寺社奉行へ差出候写

- 一 弘化三丙午年六月
- 二 肥前国天草郡村々乱妨候事
- 三 同三月二日
- 四 △天皇我詔止▽
- 五 丙午八月廿八日
- 六 松平伯耆守变地御届
- 七 丹後国变地風説書
- 八 伯耆守様衆より文通の写
- 九 水死一件手続聞書
- 一〇 朝鮮信使来聘の事
- 一一 児どもの遊び
- 一二 かくし売女
- 一三 求林齋名言
- 一四 千字文
- 一五 「最明寺殿教訓」
- 一六 改りましき芸者細見評判々々
- 一七 孕み猿を殺し家断絶したる話
- 一八 △○印六□▽

三六	街談録	二九	寛
三五	△浅草阿部川町▽	二〇	ひとひのむかし
三四	△浅草阿部川町▽	二一	不足の願文
三三	浅草新堀鯉塚の由来	二二	天水桶家配
三二	明君御意	二三	小金井村の梅園
三一	瓢箪譲与三子事「板倉公事例」	二四	小島五一杉本要蔵 良臣蔵版
三〇	隠士長流述懐のころを	二五	大■無人様参人ニ御中
二九	「文武虚実論提要」	二六	六十路の恵（宮川政運）
二八	「武学拾粹」序	二七	御厩川岸通り浅草三好町鰻店

- 三七 海幸
- 三八 因ニ云「浪花の詠の」天ノ巻ニ云
- 三九 「諸国星人談」卷ノ五ニ云
- 四〇 「二十四輩目彙」ニ云
- 四一 戲歌
- 四二 加州錢屋五兵衛一件風聞書
- 四三 加州石川郡最浦錢屋五兵衛一件風聞書
- 四四 丑三月
- 四五 流行物異国船渡来
- 四六 はやり言葉
- 四七 八一、今年春四月頃迄
- 四八 嘉永六癸丑年九月
- 四九 日本魂
- 五〇 真心の歌
- 五一 今上御製 甲寅ノ春
- 五二 嘉永六年六月
- 五三 御願の事
- 五四 行列の事

五五 〓是より人数釜石迄〓

五六 秋九月書写

五七 是より跡如風追加

五八 三閉伊通御百姓共へ

五九 東易館大先生

六〇 南部一揆風説

六一 公儀御觸 大目付へ

六二 〓一、七月廿二日〓〓家慶薨去〓

六三 牛込若宮八幡別当普門寺現住西郷和尚の返書

六四 〓牛込若宮町清五郎店〓

六五 安政二乙卯年六月廿日〓鉄炮方発令〓

六六 講武所規則覚書

六七 〓首冬初二日〓

八三一

一 〔千代田問答〕

二 〔紅葉山神靈記〕

三 〔あつさものかたり〕

四 姫路侯在所より鉄炮取寄渡伺

- 五 御門番勤人数踏込股引袴着用伺
- 六 伊達若狭守様鉄炮江戸より在所へ遣節問答
- 七 鳴物停止中打毬致し不苦哉の伺
- 八 小普請組松平傳之助より献上の名器
- 九 長崎表御用船の義松原主殿頭松浦壱岐守被仰付
- 一〇 陶梅江より贈候書翰
- 一一 江星曾揚少棠書面写
- 一二 和蘭船將書
- 一三 写 和蘭国王蒸気船之者当閏七月十日於出認之
- 一四 安政四丁巳年正月十六日評定処一座
- 一五 覚
- 一六 亞墨利加官吏へ返翰
- 一七 下田奉行へ相達候書付
- 一八 長崎奉行へ
- 一九 箱館奉行へ
- 二〇 長崎奉行へ
- 二一 別紙松平肥前守へ
- 二二 安政四巳年六月十二日規定書

- 二三 規定書蘭文和解
- 二四 規定書英文和解
- 二五 下田表於御用所規定の和解
- 二六 八一、六月廿八日 松平薩摩守家来へ▽
- 二七 下田奉行江口達の覚
- 二八 八月廿日覚
- 二九 八月廿一日覚
- 三〇 八月廿二日覚
- 三一 亞墨利加官吏取扱の面々へ
- 三二 備中国住
- 三三 八一、私領分当八月廿五日▽
- 三四 八一、九月十日 牧野備前守様▽
- 三五 安政四巳年十月肥前佐賀の城主より指出候書面
- 三六 佐倉侯警戒其御家臣への御書付
- 三七 安政四巳年十二月十三日於宮中堀田備中守殿建白
- 三八 安政四丁巳年十一月朔日備中守殿御渡
- 三九 使節拝礼の刻口上の趣和解
- 四〇 亞墨利加書翰和解

- 四一 垂墨利加使節へ応接の趣
- 四二 中奥御小性△姓▽取締掛へ
- 四三 三奉行へ
- 四四 △京都御使▽
- 四五 正月十一日柳宮の御会
- 四六 △右紅葉山御鏡御用掛▽
- 四七 正月十二日
- 四八 正月十三日
- 四九 正月十五日
- 五〇 正月十六日
- 五一 正月廿一日
- 八四一
- 一 喝蘭告密 和蘭国王書簡並献上物目錄和解
- 二 和蘭国撰政への御書翰並御別幅甲比丹へ御諭書
- 三 弘化二乙巳年八月異国船ニ付申上候書付△筒井紀伊守▽
- 四 浦賀表へ異国船渡来 弘化三丙午年閏五月廿七日
- 五 同日大久保因幡守より四度目注進状
- 六 二日即日立

- 七 三日立 松平大和守
- 八 大目付へ 六月二日
- 九 浦賀奉行へ相達候趣
- 一〇 異国人へ諭書
- 一一 六月六日△届書一通▽
- 一二 六月七日右両家よりの御届同文言也△付・房州浦賀沖異国船繫檢聞書▽
- 一三 弘化三丙午年閏五月廿七日
- 一四 △一、北亜米利加▽
- 一五 一、横文字ノ解
- 一六 被下物
- 一七 壺番乗
- 一八 立合申渡名面
- 一九 時服十 ほか
- 二〇 八月三日松平大和守様より以奉札為御知
- 二一 英吉利船琉球国へ渡来 弘化三丙午年四月五日
- 二二 五月廿日松平大隅守家来半田嘉藤次
- 二三 壬五月廿日松平大隅守
- 二四 六月三日大隅守へ達候趣

二五 弘化四年横文字書翰

二六 風説書

二七 別段風説書

二八 此節交留巴頭役より御聞ニ奉申候様申越候儀左ニ奉申上候

二九 弘化三丙午年九月廿八日阿部伊勢守様御退去へ差出

三〇 弘化丙午年十月廿三日阿部伊勢守様へ差出

三一、此度対馬守より

三二、朝鮮国全羅道之内

三三 覚

三四 館司蔦公

三五 御用番山城守殿へ被差出候書付

三六 例書

三七 覚

三八 覚

三九 一、私領分琉球国内

四〇 弘化四丁未年四月二日北川六左衛門持参阿部伊勢守様御登城前迄差出候

四一 再御届

四二 異国船風説書

三月廿六日

弘化四年三月廿一日奥弘前平館湊に漂泊異国人同廿四日上陸の図

弘化四丁未年三月廿一日平館湊船懸場へ漂泊異国船の図

八五十一

一 嘉永元戊申年四月△津輕越中守▽

二 三厩詰

三 同廿四日

四 四月四日御達再度阿部伊勢守様へ

五 高野崎へ異国船

六 △一、同日大将より▽

七 四月廿四日

八 五月四日

九 覚

一〇 六月二日

一一 同三日

一二 △嘉永元年戊申四月廿五日立▽

一三 四月廿八日立

一四 △嘉永元戊申年五月十一日▽

一五 松前侯よりの覚

一六 松前志摩守様より御届書

一七 嘉永元戊申年

一八 嘉永元戊申年

一九 〆嘉永元戊申年六月廿七日附

二〇 同六月廿九日 附七月十日御同所様へ御届

二一 同七月十八日附御同所様へ御届

二二 御達

二三 御達

二四 〆一、私領分小蝦夷地の内

二五 嘉永元戊申歳八月十二日

二六 嘉永元戊申年十一月

二七 〆一、嘉永二酉年正月廿八日

二八 〆一、嘉永二酉年三月廿七日

二九 長崎湊江北亞墨利加船渡来

三〇 四月二日同御月番牧野備前守様へ御届

三一 四月十九日牧野様へ御届

三二 四月廿九日牧野様へ御届

- 三三 閏四月五日夕阿部様へ御届式通
- 三四 嘉永二酉年閏四月相州浦賀へ異国船渡来
- 三五 吉雄作之丞より之の状写
- 三六 同日作之丞より作太郎へ来翰の写
- 三七 作太郎伝聞
- 三八 英舶入港撮録
- 三九 閏四月九日
- 四〇 被下物
- 四一 同十日
- 四二 同十一日
- 四三 聞書
- 四四 嘉永二酉年閏四月十四日
- 四五 嘉永二酉年閏四月十八日
- 四六 嘉永二酉年閏四月十五日御届
- 四七 書付
- 四八 嘉永二酉年閏四月風聞書
- 四九 嘉永二酉年閏四月
- 五〇 △己酉閏四月十二日九時▽

浦賀港へ異国船渡来

- 一 嘉永六癸丑年六月三日未ノ中刻異国船四艘 浦賀与力福田七郎より紙面
- 二 一、私領分安房平郡△酒井安芸守△
- 三 一、昨三日未下刻△阿部駿河守△
- 四 一、六月五日△
- 五 一、私知行所武州久良岐郡△稻生金之丞△
- 六 遠藤但馬守様宅申渡
- 七 一、百枚△神社仏閣への静謐祈祷料△
- 八 一、細川越中守様にて左の通り△
- 九 一、老ノ手式ノ手△
- 一〇 六月八日御目付堀織部
- 一一 一、此度異国船渡来ニ△
- 一二 一、今度異国船持参△
- 一三 一、加藤殿咄ニ△
- 一四 浦賀問屋尼屋七藏より和泉屋仁平治迄之文通久須見より着越
- 一五 一、昨九日暮六時前△
- 一六 一、六月十一日風聞書△
- 一七 一、異国人都府△
- 一八



三七 〓 昨三日未ノ中刻頃〓

三八 〓 渡来軍船

三九 〓 六月六日

四〇 〓 大目付へ覚

四一 〓 覚

四二 〓 〓一、奥御能有の趣ニ〓

四三 〓 六月七日

四四 〓 〓病氣ニ付右代リ〓

四五 〓 備前守殿御渡大御番頭へ

四六 〓 寄合肝煎へ

四七 〓 御使番へ

四八 〓 〓一、大久保加賀守様〓

四九 〓 丑六月八日牧野備前守様御渡御書付式通大目付へ

五〇 〓 大目付へ

五一 〓 大目付、御目付へ

五二 〓 堀織部

五三 〓 〓此度異国船持参の書〓〓松平肥前守〓

五四 〓 六月九日〓御先手金田式部、松平藤十郎〓

- 五五 銀百枚 増上寺方丈
- 五六 六月十日△揖斐与左衛門、根岸五郎兵衛▽
- 五七 △一、去ル三日未刻▽
- 五八 覚 御軍令
- 五九 六月十三日大目付へ
- 六〇 丑八月七日 阿部伊勢守様
- 六一 嘉永六丑年六月御懸り并御用番へ会津より御届
- 六二 △一、房州御陣屋より飛脚之者▽
- 六三 浦賀奉行より左の通両度届出ル
- 六四 掛川より左の通御掛り牧野備前守殿御用番松平伊賀守殿へ御届差出
- 六五 彦根より御届
- 六六 松平誠丸より御届△二通▽
- 六七 異国船相見候浦賀御蔵詰手代共より申越候二付御届
- 六八 異国船浦賀湊へ相越候旨同所御蔵詰手代共より申候并御届書
- 六九 御用番伊賀守殿并御掛り備前守殿へ松平下総守家来より御届
- 七〇 下曾根門人より内々申越候文通
- 七一 斎藤嘉兵衛支配所海岸附村々へ書付
- 七二 町方申渡



- 九一 但馬守殿御先手  
 九二 但馬守殿同書  
 九三 △十日夜九ツ時頃▽△老中・若年寄不時登城▽  
 九四 異国船之儀ニ付奉申上候書付  
 九五 斎藤嘉兵衛元ノ手代田中芳五郎  
 九六 豊島郡今戸町麻布町三田町△松平讃岐守出馬惣人数▽ ほか  
 九七 覚  
 九八 細川越中守△屈▽  
 九九 松平讃岐守・酒井雅楽頭・松平越前守・奥平大膳大夫  
 一〇〇 異国船渡来ニ付風聞書  
 一〇一 浦賀奉行御届  
 一〇二 大目付御目付へ  
 一〇三 松平下総守家来陣屋在役の者江戸表同藩之者へ文通写  
 一〇四 浦賀与力姓名不知文通写  
 一〇五 異国船浦賀表江渡来ニ付風聞承り候書付  
 一〇六 異国船帰帆後風聞承知申上候書付  
 一〇七 △嘉永六年丑六月三日▽  
 一〇八 海岸掛御目付より阿部伊勢守殿へ御直々進達左の通り

一〇九

大目付

一一〇

大目付

一一一

大目付在村衆へ

八八一

一

合原惣蔵ヨリ聞書

二

△一、六日九ツ半時蒸気船一艘▽

三

飯塚衆三ヨリ聞書

四

樋口多二郎ヨリ聞書

五

香山栄左衛門ヨリ聞書

六

近藤良治ヨリ聞書

七

△長崎奉行手附馬場五郎左衛門▽

八

長崎奉行へ御注進候趣

九

附風説書の内抄録

一〇

合衆国伯理璽天徳書翰和解

一一

亜美理駕大合衆国大統領姓ハ斐謨名ハ美辣達ス

一二

亜美理駕大合衆国大統領姓ハ斐謨名ハ美辣申述候

一三

△亜美理駕大合衆国欽差大臣▽

一四

△亜美理駕大合衆国欽差大臣▽

一五 〓敬啓者今送来公書一封内〓

一六 北亞墨利加合衆国の伯理璽天徳「ミルラルトヒルモオ」人名 書を日本国帝殿下に呈す

一七 北亞墨利加合衆国の伯理璽天徳「ミルラルトヒルモオレ」書を日本国帝殿下に呈す

一八 日本国帝に上つる書

一九 〓大君皇帝首仁幸来俄羅斯統興〓

二〇 〓大俄羅斯国御午大臣欽奉全權使〓

二一 伏接来礼知

九一

一 安政二乙卯中秋つごもり快晴「昇平日記」

二 「各志世論」序及び本文（鈍亭魯文）

三 「戊戌夢物語」

四 「夢々物語」

五 天保九戊戌年風説書畧文

六 「慎機論」（渡邊登）

七 「籌海私議」

八 「兵家者流某海防策」

九 〓問て曰〓

一 「海防備論」抄録

二 「海防策」

三 海防之儀ニ付僭越の罪をも不相顧愚存奉申上候

四 大船御免ニ相成候ニ付財用の儀奉申上候

五 異国船ト申ス中ニモエゲレス船尤用心可致事

六 異国船ノ患難ヲ除キ候一計ノ事

七 敬神の道ヲ専ニ御立被為在事

八 西洋ノ軍船同ヤウノ官船御仕立被為在度キ事

九 武術訓練火術御手当ノ事

一〇 八当七月上旬▽「鶴峯戊申」

一一 景山公∥水戸前中納言齊昭公∥執政阿部伊勢守様へ御答御密書拾ヶ條御外封の御書付

海防愚存

一二 「鷺毛筆録」(柴川道人)

一三 邊防

## 「青森県立図書館解題書目」刊行一覧

(第22集まではすべて品切れです)

第1集	津 軽 史	昭和46年10月21日	発 行
第2集	官省指令留・官省願伺届	昭和47年 3月10日	発 行
第3集	滝 屋 文 書	昭和48年 3月10日	発 行
第4集	木 村 文 書	昭和48年11月25日	発 行
第5集	多 門 院 文 書	昭和50年 2月 1日	発 行
第6集	五 家 文 書	昭和51年 3月31日	発 行
第7集	萬 日 記 抄 一	昭和52年 3月25日	発 行
第8集	萬 日 記 抄 二	昭和52年 7月28日	発 行
第9集	萬 日 記 抄 三	昭和53年 3月25日	発 行
第10集	津軽史解説目次抄一	昭和54年 6月25日	発 行
第11集	津軽史解説目次抄二	昭和56年 3月 5日	発 行
第12集	津軽史解説目次抄三	昭和57年 3月15日	発 行
第13集	津軽史解説目次抄四	昭和58年 3月15日	発 行
第14集	津軽史解説目次抄五	昭和59年 3月25日	発 行
第15集	萬 日 記 抄 四	昭和60年 6月24日	発 行
第16集	萬 日 記 抄 五	昭和61年 6月26日	発 行
第17集	萬 日 記 抄 六	昭和62年 6月20日	発 行
第18集	大 津 屋 文 書 一	平成元年 1月31日	発 行
第19集	大 津 屋 文 書 二	平成元年12月15日	発 行
第20集	松井四郎兵衛留書	平成 3年 1月18日	発 行
第21集	伊 紀 農 松 原 一	平成 4年 3月31日	発 行
第22集	伊 紀 農 松 原 二	平成 4年10月30日	発 行
第23集	与 之 遠 美 叢 遺 一	平成 7年 3月31日	発 行

0 2 5

## 解題書目 第23集

青森県立図書館編

青森 青森県立図書館 1995 (平成5). 3

3 3 6 P 2 1 cm

内容：与之遠美叢遺 1 総目次編

---

平成7年3月25日 印刷

平成7年3月31日 発行

編集・発行 青 森 県 立 図 書 館  
青森市荒川字藤戸119-7  
TEL. 0177-39-4211(代)  
FAX. 0177-39-8353

印 刷 東 奥 印 刷 株 式 会 社  
青森市古川二丁目17番5号  
TEL. 0177-76-5361(代)

---







